WASON
HQ
1104
J74

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

明治二十年七月十六日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

第六十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 67. JULY 16TH, 1887.

第六十七號

EDITORIAL:—Summer Bacation Spent in Watering Places.

LEADING ARTICLE:—Suggestions to our sisters, by Mrs. M. Ebina: Woman and Hygine, by Dr. K. Takagi.

MISCELLANIES:—On Dancing (Concluded).

CRITICAL NOTICE:—"Philosophy of Love" (Shikijo-Tetsugaku) by Mr. R. Kōda: "Queen of the Social World" (Kōsai-no-Nyowo) by Mr. U. Tsubouchi, M.A.; "The Guide Book on Composition" (Bunpōkoju) by Mr. H. Sadsuki.

BIOGRAPHIES:—The Late Mrs. Brown: Sarah Martin.

NOVEL:—"Fragrant Rose."

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

●社說　避暑の當節溫泉場の取締を望む

●論說　日本の姊妹に勸む（海老名みや子）女子と衛生（高木兼寛君）

●叢話　舞蹈の利害（其二）○和文學講義第四の下（鈴木弘恭君述）○越路太夫の淨瑠理

●批評　色情哲學○交際の女王○文法口授

●佳傳　ブラウン夫人○サラマーテン

●小說　薔薇の香

●寄書　レビット夫人の來東○螢狩（鳥居忱）進めの歌（淺井さく）○女學雜誌の精神（綱島佳吉）

●新報　二十件　●廣告

○珊瑚の珠　（第三十四回）

○ラスキン曰く婦女子もし之を望まバ容易にして戰爭を中止するを得べし何んとなれば凡そ戰爭として婦女子の關係せざるものなく亦た其好むが爲に起らざるハなきが故なり

○大統領リンコルン之を謝して云くかの南北戰爭の時に於て婦女子諸君が盡力ありたるの功は眞に莫大なるものなり

○シェレーがハルリエットウエスブルックを娶るや其容色の美なる其態度の雅なる其聲の麗ハしき談話の樂しげなる心の面白きなどロセッチの云へる如く殆んど間然する所なかりしにシェレー遂に之と合ハずかのマーリーコッド井ンを愛せしかばウエストブルックの身はサーペンタイン河中の藻屑となれり。バイロン侯の夫婦を見よ侯の初め夫人を娶らざるに先ちては全世界中また此樣の女なしと云ひ余ハ彼の褒むべきと驚くべきとの外ハ何事をも聞及バずとまでに信用したるに衾一たび合してよりハ彼自作の詩を解し能ハざるのみか英文の寸尺をも讀み能ハざるグイッシヲリ伯爵夫人の慕ハしくなり遂に之に再婚したり。此他ゲーテセクスピアの類亦此例あり蓋し學者尙然りと云ふ常人の夫妻に和樂せざるもの丶多き亦故なきにあらず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第六十七號

明治二十七年七月十六日

● 社說

○避暑の當節温泉場の取締を望む

傍に祖積裸躰の人ありて之を搆はざるものは古の柳下惠のみ今日文明の時代と爲りては第一禮式の制限甚だ六ヶ敷して人々の心得方亦甚だ高尚と相成たれば自分が起居座臥に注意して行儀の用心堅固なると共に人の仕向方を吟味するとも亦昔日の如くあらず昔し虱を捫るの書生を英雄としたるものも今日之れを非常の無禮者として容謝せざるべし人々の交際萬事甚だ究屈となりたるやに思はるれども之れ即ち眞の文明にして追々物事を奇麗にする開化の精神に適ふものと云ふべし

所謂る肉躰を露はすの一事は即ち古に於て頓着せず今に於て尤も嫌悪する所のものなり蓋し野蠻の民は腰に怪し氣なる虎の皮を纒ひ頭に羽打つたる冠を頂くの外全身を丸出にして毫も恥辱とせず甚だしきは反て其肉に色々の模様を畫き之を自慢らしく人に示して誇りたるものあり思に此の社會に於ては肉躰暴露の事決して恥辱にあらず人も亦見て之を無禮と爲さゞりしと雖も之よりして文明の足一歩を進めれば則ち身躰を被ふと亦一寸を廣くし開化の度彌よ高ふなるに付て衣服を重ぬると亦たいよ〳〵厚きを加ふるが如し試に當今歐米の開化人を見るに頭に帽を頂き足に靴を穿ち手に手袋をはめ頸に襟飾りを高ふし而して婦人は尚ほ其面をも被ふと云ふ若し此割にして進まんには人遂に眼中の瞳ばかし出して其他をバ隱くさんかと思はるゝ之れ即ち肉躰を包むもの丶上乗なり由て我國人中の風習を見るに亦た得て開化の多少を測知すべし先づ車夫の下等なるものは股より下、腕より先、を現はす然れども法被股引に全身を覆ふものは上等のお抱なり、書生の最初は衣肝に至り袖腕に至る其の風躰恰も半天を衣るに似たり然れども黑の洋服全身を包みて肉眼亦た目鏡を掛るに至りて即ち上等の書生となるあり、又女の下等なるものを見るに胸前開け衣服合はず柱の如き兩の股時々空氣に觸るゝも恬として顧みず蓋し下女はした女の類なならん然るに彼の深窻に養はれ玉ふ姫君は十二單重に玉躰を包み御裾長やかにして足の運を示さず隱くし得て至れりと云ふべし如此きは皆夫々の仲間に於て肉躰を包むの多少を以て其開化進歩の多少を示すものなり若し夫れ跣足の男常足袋の人に制され、羽織を衣たる番頭仕着せの小僧を叱り、親方土寺を引かつぎて子分肩を脱ぎ、相撲裸で

取組み行司上下着て撿察し、ウエブスター薄衣を着けて劍山の眞裸なる、膚着一枚の貧相もの輕蔑されて重ね豐かに着なし足振としたる旦那が敬さる丶如き皆な是れ同一味の理由に出るものと云ふべし

之を以て西洋人が右の一事に注意するとの綿密なるは即ち殆んど其國一汎の風なりと雖も其女流に至りては殊に甚だしく之れを掛念してたしなみ甚だ嚴かなるが如し故に外國女教師が日本の女生徒を教育するに當り之が身の廻りに付て先づ第一に注意する所は襟を固くしてピンを以て止むべし夏冬足袋を穿ちて素足にて在るべからずとの二件なりと云へりその肉躰を露はすとを嫌ふの用意至れりと云ふべし然れば西洋人は尤も親密なる夫婦間と雖も互に其躰を見するを以て雙方の恥と爲すかのてゝら二布をして裸躰の夫婦夕顔棚の下に涼を納る如きは彼地に於て甚だ不快とする所あらん友人某多年の間洋行して彼の地に留り未だ一回だも女子の肌を見たるとなしと云へるは眞に味わるの談なり之れを我國の女が時としてはハダを脱ぎ時としてはシリをからげ以て恥とせざる如きに比せば果して幾干の差ぞや顧みて眞に赤面に堪へざる事也

此の故に男女混湯の如きは文明の地に於て夢にだも聞かざる所のものなり彼地には男子が男子に躰を見するを厭ひ女子が女流に躰を見らるゝを恥とす况んや男女全身を露はして入込の湯浴を成す如き事をや某國にもし如此風俗ありと聞かば其國に何如なる聖人の道行はれて何如に黄金に富めりといへども只だ此一事に由りて之れを野蠻國の類中に組入るゝと勿論なるべし之を以て我明治政府は夙に男女混湯を嚴禁するの法を設けられぬ見る所宜しきを得たりと云ふべし然るに一軒の湯屋左右に男女の風呂を造り湯壺を一にして間に少かの仕切を立て以て僅に法律上の申譯を爲したるものあり政府も初は之れを大目に見て容謝ありたれども遂に嚴に之を取締りて必ず湯壺を二にすべしと命ぜられたり然るに左右兩室の區畫尙ほ甚だ曖昧にして彼此明に見透かし得たれば女方の大きやかなる臀殿方の殺風景なる行儀雙方明に見へ渡りて恰も一室中になるが如し加之風呂屋の主人特更に區畫の仕切に硝子を挿みて尙更に容易く見透かさするを以て風流の結搆と心得たるあり以ての外の亂暴なるが故に政府は更に令を嚴にして中仕切を悉く板付にし男女の浴客は雙方一寸も見過すと能はざらしめて遂に今日東京府下に於て見るが如きの湯屋とはなれり此の最後の嚴命は一昨年の十二月來府下に行はれたるもの

にして其後各地方にも同様の施政ありたりと聞及ぶ全國の湯屋今や蓋し昔日の觀あらざるべし之れ尤も慶賀すべきものならん然れども吾人もし歐米の風を慕ふて密に顧れば今日の取締りは尚ほ完全を得たるにあらず更に進んで一人一室に入るの有様に至らずんば決してかの躰を隱す上乘の風俗に達したるものにあらざると勿論なりと雖も而も今や全く男女混湯の跡を絶ち男は男、女は女とのみ相混浴するの地に進みたるものあり湯屋の進化の跡之に鑑みて甚だ面白きものあるが如し故に今日の我國の湯屋は未だ歐米に行はるゝ如きものに至らざるは言を待たずと雖も先づ男女混湯の蠻風を去り得たるものとして甚だ喜ぶべきが如くなるに玆に尤も奇しむべきは彼の所云る温泉場なり其取締りは今日に至るも尚ほ依然として昔日の蠻風を存し敢て變はる所なきハ何故ぞや去年吾人箱根に湯治したる時狹やかなる湯壺に人の娘孃妻君等と共に浴せざるを得ざるの不幸に遭ひ常に赤面したることあり況して女方に取りては其不都合なると言語に絶す蓋し數多の婦人中には之を何とも思はず湯の中に高談大笑して平氣なる輩も亦之れあらんとは雖もその大抵は厭慮して墓々しく入浴せず人の居らざる隙間を覗ふて倉惶入浴するの躰尤も氣の毒に思はれたり蓋し温泉場は保養を主として萬事緩かならんことを希ふ所なるに其風呂場は反つて尋常の湯屋にも劣りて不安心なる事極なし男子の方は暫く之を恕するとしても女子の身上には不快此上なし吾人少か代て之が爲に不幸を述べざるを得ざる也當路の人希くは其取締を嚴にして男女の湯壺を別たしむべし蓋し大抵の湯治場は一箇處に二以上の湯壺あらざるはなし之を男女に分つと決して難事にあらず例ひ又湯壺只一にてあらん時も入浴の時間を割て男女の入湯を定めば之を制すると難きに非ず而して今尚ほ男女混湯の餘習を此處に隱居せしむるものは何ぞや温泉場は外國人の尤も多く群る所なり當路の人國の爲めに心を用ひて可なり

吾人嘗て之を文化六年に出板したるヲドケの大著に聞く云く當時の師直さらに女湯を覗かず男湯孤ならず女湯必ず隣りにあり亭主の貧頭盧尊者は斜に女湯を見やりて膏藥の流るゝを知らねど男女風呂を同うせず夫婦別あるを知れるや女房の光明皇后女湯の番頭に代はる」と蓋し風呂屋の男女各浴する所を異にするを誇るならん吾人は十九世紀明治の聖代に於て式亭三馬が箱根伊香保の温泉に浮世風呂の惡口を述べざらんとを切望して止まざるもの也

●論説

○第二回女學演説第三席筆記

日本の姉妹に勸む

海老名宮子演述
佃　龍雄　筆記

往昔支那に於きまして婦人を藤の花に喩へたとがあります、藤の花は誠に奇麗にて葉も蒼々と美しきなれども此奇麗なる藤の花ハ如何なる大木なりとも是にからみつく時は輙ち其木を枯し盡す恐ろしき害をなします。又西洋にても女子を大木にからまる蔦葛に喩へてあります、御承知でもありませうが柏の木は大風の時抔には折易き者なれ共若し蔦の蔓がからまり居れば如何なる大風も凌ぎ得ると申すとで御座います。

男子の性質は誠に大きく又剛く堅き者なれども物に觸れましては眞に折れ易く至て脆きもので御座います、又女子は之に反して誠に軟弱の様には見ゆれど能く事に忍耐して物を爲し遂る性質を持て居ります、丁度男子は柏の木の如く女子は蔦葛の如く誠に此二ッの喩は能く當れる者と存じます。

昔より一婦人の爲めに大國も亡びたる例は謂はずとも夙にアナタ方のオ耳の中にあると存じます、又婦人の一言に勵まされて大事業を遂げ又亡滅を救ひしとも能くアナタ方のオ心に感じられて居る事と思ひます、婦人たる者は斯かる恐ろしき力を有して居る者で我々も亦知らす識らずの間に此力を持て居るので御座いませう。

我邦の婦人今迄の有様は如何でありしかと考て見れば御承知の如く酷だ憫むべき境遇にありて恰も其家の奴婢の如く、又男子ハ己れの所有物と思ひたる程の事にて夫の申事あらば如何なる無理非道にても不義の事にても夫に順ふは却て婦女の徳と致たる有様でありました、然るに此頃に至り外國との交りも近くなり彼地の風俗を見聞する事も出來彼地の學術を修むる事も出き婦人を卑しむるは正理にあらず男子と偕に幷び立つべき者と頻りに此説を主張するとゝなり學問をなすべしとか外國の言葉を知る様にとか彼地の禮式も知らんければならぬとか又彼地の衣服を着けよとか舞踏を學ばしめよとか種々婦人の事に注意し宴會の席にも男子は婦人を携へ其世話を爲すと云ふ様に大層尊とまれて參りました、我々に取りてハ實に幸福の時にはあるなれど之を受けて居るばかりでなく婦人自らも充分に發憤すべき時と考ます。

私共が斯かる有様に至りしハ恰も永き間暗室に閉籠られしを突然天日を拜するとを得たるが如く又籠鳥の深林に放たれ

たるの思であります、去り乍ら何故に斯く尊まるゝか婦人の價値が眞實に此に至りしかと其本に反りて考て御覽なさい、私は婦人の位置の進みしにはあらで全く歐米皮相の風を我々は被りたる者と存じます。

外國に於きましても其初めより斯く婦人の尊まれたのでは有ませぬ、其源は矢張り日本の如く卑められしなれども漸々婦人の價値が高まるに從ひ今日の如く尊まるゝに至りたるのであります。今より千八百年前に耶蘇の敎が伊太利に起り此宗旨の世界に廣まりしより追々婦人の位置は高くなりました、元來該敎には男女の區別もなく富る者貧しき者の區別もなく爵位俸祿の區別もなし只其人の德不德に因りて尊卑あるので御座ります。ソレ故に德の有無は男子よりは却て女子は一歩を進めて居る柔和勤肅と云ひ方正忍耐と云ひ男子の難ずる所の者は女子能く之を爲し遂るを以て從來卑められたる者も其地位を進めて尊まるゝに至りたるので御座ります。

其後學識あり經驗に富みたる婦人の輩出したればこそ尊まるゝに至たるなれば婦人の尊むべきにあらずして尊むべき地位に婦人は出たる事と存じます、言葉を換て申せば價値なくして尊まるゝにはあらで尊まるべき價値を婦人が養しの結果なりと存じます、詰り婦人は價値相應に遇せらるゝ者なれば其價値なくして我々は尊まるゝを望ません、眞鍮に滅金したればとて剝れば同じ本の眞鍮たるに相違ありません、去を金の如くに尊まれたればとて我々は決て滿足するヿは出來ません寧ろ眞鍮は眞鍮を以て遇せらるゝこそ至當のヿと存じます。

今迄は男子と女子との隔りの大なる爲に容易に近づく事すら難き有樣でありましたが當時西洋風俗の入來るに及び其交際も漸を追て親くなるに際し、我々婦人は今迄の如き汚れたる根性を持て居たならば西洋の風俗に染るは甚だ危き事と存じます。西洋に於ては苟且にも婦人の前にて聞苦しき事抔を話しすれば其人は其席より斥けられます、此の如き話を喜ばざるのみならず又此の如き人と共に座するを好みません、畢竟其婦人が威張て此樣の事を爲すのではなく眞實の操を守る心の淸きは右の如くであります。然るに日本に於ては婦人は男子の玩弄物の如くなつて居りましたから男子は婦人に對して汚れたる事を噺すも躬らも耻ぢず婦人も亦喜で聞き居る樣な有樣で婦人にして潔白の操を守る抔と申すヿは眞に尠なきヿであります、縱令あるとしても正しからぬ亭主の命に遵ひたりと云ふ位の事です。それ故に眞實に女子を尊むヿのなきも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

決して異しむに足らぬ事で其一例を申しませうならば、夜會とか何とか表立たる處に參れば日本の男子も矢張り女子を尊む樣な有樣にて婦を携へ崇むる如く大層立派には見へますが其人が歸宅せし後の有樣は如何か家内の樣子は如何か依然舊に復して奴隷の如き待遇を受けて居るに相違ありません。

此の如き有樣ですから夫たる者は實に婦人に對して失敬なる無禮なる玆に申すも恥かしき行を爲して居ります、其妻の外に尙婦人を畜へ妾となし或は汚れたる婦人と親み戯るゝ如きは實に其妻に對して無禮なる失敬なる行と申さなければなりません、然しながら今日の婦人は是を以て甘んじて居る所を觀れば獨り男子のみを深く咎むるとは出きませぬ、我々同胞姉妹は悉く其責に當らなければなりますまい、我々が斯かる淺ましき風俗に居るは男子の過にはあらずして即ち我々同胞姉妹の過ちなりと考ます。

私は是より尙一歩を進めて申します今の婦人たる者は夫が外に出てゝ種々の事務に鞅掌り家に歸り來るも其妻は更に之を察するとも出きず又如何なる心配のあるかを知らざれば勿論此を助くると抔は出きません、其上家の內だけも齊わず終始夫の厄介となつて殆ど何事をなして夫を助けしか索め難き程であります夫たる者焉んぞ之を尊み是を敬するとが出きませうか、夫の相談せざるも詰りは我々の智識に乏しく共に事を談ずるに足らねばこそ相談もせざるなれ若し己を捨てゝ夫を護り充分の德を養ひ智識を發達せしめなば其婦を捨てゝ何しに夫が他に娛を求めませう否男子は決して此行を致しはすまじと思ひます、如何にして此貞節なる婦人此智德ある妻を敬せずして居られませうか夫たる者が他に妾を畜へ汚れたる行を爲すは畢竟何れより考ても其妻の責任を盡すの薄きに歸せなければならぬ事と存じます。

總て權利てふ者は其人の働に應じて出來る者であります、西洋にて夫婦同權などと申すは一は一己の財產を所持して婚姻するなればでもありませうが是にも一理窟のあるとで御座いませう、日本にては妻の財產と云ふ者はなく何處迄も夫に養はるゝのでありますが若し妻は妻たるの働を爲す時は決て夫も之を卑むる事は出來得られまじと考ます、妻たる者が夫の養を受れば妻は夫に對して其報をしなければなりますまい何事に致せ世話を受け厄介になれば之に報をしなければならぬから妻の働を爲すは獨り夫のみならず世の中に對する務めなるべしと思ひます、故に我々は夫の爲には力のあらん限り盡

さなければならぬ、若し妻が其職を盡すならば知らず識らずに尊とまれて參りませう。故に外貌の尊びは頼むに足ません能く其職を盡し眞實より尊まるゝ程の徳を養ふは我々同胞姉妹の一大急務と存じます。次に智識を磨く事の此二ッの者は婦人の地位を高むる良策なるべしと思ひます。

私は殊更に徳を脩めなければならぬとアナタ方にオ勸め申すとハ、婦人ハ婦人一巳で立つとハ難く男子も亦男子一巳で立つ事は出きません、婦人は家に在て小供を敎育する故にトント世の中の事には關係なきに似たれども知らず識らず社會の事業に力を盡して居るに相違ない、自ら其事に與らずとも自分の夫或ハ兄弟たる者が世の爲めに盡すとがあれば間接に於ては其妻や姉妹たる者が與て大に力あるとで御座りませう。併し又誤りて惡き方に向へは如何なる淑女も國を傾け城を亡ぼすの毒婦となります。

然して我々同胞姉妹を上帝が造り給ひしも必ず男子と共に世を文明に進ましむる目的なるに相違ない故に私の今述る所は何卒アナタ方と力を戮せ心を一にし外は國の開化文明を計り内は男子を輔けて大なる働をなし貞女烈婦と呼ばれ及ばずながら日本の爲に盡したき心得であります(完)

○女子と衞生(其二)

高木兼寛　演説
林茂淳　筆記

第五海上はドゥかと云ふと、やゝともすると破れさうな船に乘ものが多いです。命は惜いに違ひ無いが立派な船が御坐いませぬから危い船に乘らなければならないのです。またいゝ船が有ッても乘ない人か澤山です。彼ノルマントンなどに乘ッた人はドゥです。荷物同樣でもたゞ安ければいゝと云ので乘るのでせうが其れは貯へが少ないから安い方がいゝと云ふのでせう。身躰の爲めにもよくないアブナイと云のハ知ッて居て有りませうが其れにも搆はずアンナ船に乘る所を以て見ますとつまり貧乏なのです。さういふことハ他の國にハ無かと云ふに有るとハ有りますが我が國ほどヒドクないです。

第六貧乏のお話しをモウ一つしませう。これは我國の人は是非知らなければならぬから云ひますが我國の兵數ハ同人口の文明國のものに比すれは其數甚少なふ御座います其故は兵卒になる男がないからではなく國が貧乏で之を養ふ力がないからです序に申述べたい事ハ我が國の人は徴兵とか云ことを大層嫌ひますが鐵炮を舁ぐのがイヤだと云ふのはオノレが身躰は一人前で無いのがいゝと云ふのと同じことで兵卒にもなれ

ぬやうな身躰を持ッて居るやうなものは實に用にたちませぬから今日お出でのお方などは決してソンナ男は御亭主になさるな。若ソンナ男を御亭主になさると生涯の御難儀で御坐ますぞ。またアトに續々出來る子供は段々弱く小さくなります。此事はよくお考へなすッて子供を育てるお方は兵卒にでも何にでもなれるやうに子供を拵へるやうにおんつとめくだされたくぞんじます誰も彼もオレの子は兵卒にしたくないと云ふやうになりましては此國を守る人がありますまい。ない時には日の丸の旗も無くなり是までの通り御祭り日等にも之を揭げることが出來ぬと云ふやうになりましやう。

以上申述べたるやうに物がありゆくと云ふ考へで有ます。なほ續いてお話し致しますのは衣食住の三ッは身躰に關係のあることで御坐います。

先づ着物の地質はチョイと見た所は絹がいゝやうですが生活をするには絹の着物はアマリよくないのです多くはオシャレで飾の點から用ふるのです。素より衣服と云ふものは身躰を保護する爲のもので暑い時分には暑くないやうに寒い時分には寒くないやうにし加ふるに一はお飾りでありますから日本の法律でも膝から上は出てならぬと云ふことになッて居ります先づお飾りに違ひ無いです。しかしドウ云ふものがいゝかと云に身躰の運動を妨げないものが最もいゝのであります兎に角衣服は手足の運動を妨げ無いやうになければならぬものですがこれは裁縫の仕方ばかりで出來るもので御坐いませぬ地質が引けば伸びるやうになければなりませぬ。絹木綿麻リンチルなどは少しも伸びませぬが羅紗殊に綾羅紗はよく伸びます。よく伸びれば手足のアガキを妨げることが少なふ御坐います先づ仕立屋にいらッしやると能く分ります綾羅紗で仕立を言ひ付けると仕立屋が喜びますけれど綾でない羅紗で注文致すと工合が能く出來ませぬので仕立屋が困ります綾羅紗の方だと引けば伸びる力が有るので工合も能く出來るのですそこでドンナものがいゝかと云ふに毛織物が最も宜しい。寒さを防ぐに一ばん宜しいしまた暑い時分に汗をかいてもフランチルなら通すことが少なくて冷る時分にも麻のキレヤリンチルよりは冷ることが遲いから風を引くことが少ないです併し暑い時にも日本の夏のユカタなどはすてゝ毛織の物を着てお出でなさいと云ふのでは有りませぬ手足の自由になるやうお着物をお用ひなさいと申すのです(未完)

Where is any author in the world
Teaches such beauty as a woman's eyes?
Shakespeare.

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

●叢話

○舞踏の利害（其二）

罷り出でたるは原告ヘルマン氏とは折々面會も致したるミッセス、ミルトン、ボーエルスと申す者にて候原告がダンス、チフ、デッス、を著述ありて餘り法外なる非難を舞踏の上に施されたるに付女性の身とは云へ辱くも既に學士の稱號をも得たる妾なれば道の爲に默止がたく一書を著して答論いたし候其書は即ち之にてダンス、チフ、ライフと申し相應の理由は相述べましたる心得に候へど討論がましき儀無之樣と判官樣の御心添につき之れを閣下に呈上して御一覽を乞ひ置き今は妾が信ずる所をかい摘んで申上ます、原告は固より凡そ此遊に反對遊ばす所の方々は妾等が殿方と相抱き相密着したればとて則ち以て何か怪しかる不品行の事を致せしやうにも思し召され或は又之よりして不測の害を起すに至るべしと迄心配遊ばせども乍憚之は彼の古談の鰻臭をかぐ者を責ると同樣かと思はれます御存知の如く古しく鰻屋の隣に住つて毎日蒲焼の香を嗅ぎ之を馳走にお茶漬で濟せし男ありしと思し召せ鰻屋の主人殊の外に怒り月末番頭を遣つて鰻何本代若干を頂戴いたしたしと責め立たれば彼男おか〱扱らぬ顏にて財布の金を高らかに響かせ乍らサ之にてお拂は濟みたりと申せしよしあり今ま舞踏の際相抱き相近よるものを見て之を怪しかる事を爲すものと心得らるゝは所謂る鰻屋の主人早合點して人を責むるものにては候まじくやまた〱……

コレ〱夫人其ようある事は皆な其方が著書に記してある事じや別に簡短に信ずる所を申されたが宜しからう。

然らば急所と信ずる所を一言いたせば原告などが舞踏は惡しき心持を起すものヂヤなどと那の樣に喧しく申まするによつて元來何の氣もなく子供らしき心得にて舞踏いたしたるものが之よりして變なる感覺をも懷くように相成るものなり既に原告の著書は舞踏の害を辨ずるよりは反つて舞踏をして新に害を起さするものと爲せしとの評判を受けましたは即ち此處の處かと考へます抑も英國にては小學校にてすら舞踏を敎ゆる次第歐洲諸國は固より我米國の諸州にても皆な上流有德の人々が之を試みて遊びとし何の害もあらざる者を如何に君子國あればとて貴邦の人々が餘りに之を御心配遊ばすはチト臆病過るかと思はれ倘或は西洋の交際方を知らぬ不意氣のお人かと存ぜられます特に當今男女交際を大切なりなど論ぜらるゝお人は甚だ多けれども偖て何如にして其交際を爲さば宜しき

やと云へるとには餘り御名論を承はらず其時に至りては到底舞蹈の如き遊びを致さずては中々多人數中の交際は出來るものには候はずかたし〳〵舞蹈は利ありて害なく害ありと云ふは所謂影を見て實ありとする臆病主義仕椀坊主義かと相考候まゝたゞ〳〵其大畧を申上ます。

成程御申條よく相分つたが原告何か承り度儀あらば此際本官に對して申置くとも苦うないぞ。

有難い仰せ然らば一應判官閣下に言上し置きたし被告は原告等が兎角舞蹈を以て不道德の遊と心得るやうに思はるゝ如し之はくれ〳〵も誤りたる見解にて拙者等苟くも封建男子にて有らざる限りは此ような事は申さず但だ舞蹈は男女の間の遠慮心を緩うし特に女性が固有する謹慎の風を減し其間の禮式自然近きに過ぎて遂に狎れ〳〵しき交を爲すに至らん此に至れば諸共に弱き人間は罪を侵すの迷尤も多くして測らず其穿に陷るとありと云ふ迄にて其結果よりして有害と申す義に候かの鰻屋の例は此儀に何たる効能あるものにや承り度候次に外國及米國の事を種々と引用されたるが元來幼き時より學校にて男女相舞蹈するとを學びたる者等は自然此遊を何とも感ぜず全く罪もなき小供らしき樂とも心得申すべきが左樣の事なき國々特に多年男女の間を尤も隔離して相談話するすら耻らうやうなる國柄に於ては決して彼の開化したる外國に於ける實例を以て論ずべきにあらずと思はるゝに况して我米國の如きは被告も現に承知致し居らるゝ如く凡そ道德堅固の人く々と云はるゝ社會に於ては決して此遊を用ひずたゞ〳〵紳商とか遊好とか富權とか申して世俗で所謂る上流社會と囃さるゝもの等のみ之を面白がると云へるに由りても當國人が此遊を見る眞の感想を示すものと存ぜらる然るに此の世俗的の上流社會が之を行うと申して直ちに之を貴國などの上流社會に推及ぼし米國にも既に然々なりなど申さるゝは眞にわが米國の道德を無したる愛國心なき事にて候のみか貴國の方々に對しても實に申分なき儀にては有まじくや次に又多人數の交際には舞蹈の如き遊ならでは無効なりと申さるゝが一躰舞蹈は碁將碁などゝ同類の遊にて實は二人に限り適すべきものなり眞や多人數を一時に喜ばすべき性質のものには候はず之よりも相集りて面白い談話を聽くとか又互に往來し入亂て交〳〵談話するとか云へる方が遙に多人數の交際に適するものと考らる然るを諸人が往々舞蹈を以て此目的に相應するものと心得るは如何なる見解によるものにや之亦被告に尋ね置たく候

以上三の箇條何卒判官より宜しく御尋問被下樣に願候。

イヤ之は最早討論の種と相成り宜しからず原被兩造とも此外新に申陳べき箇條なくば之より證人方の辨明を承りたし舞樂會々員諸君の中御苦勞ながら我國に於ける舞蹈の決果何如を御談しありたい。

證人席より突立上られたる紳士は八字髯鼻下に龜井戸的の橋を架し燕尾服胸ひろく白うして流石に美男子の風あり一つ二つ咳拂し春の戸出る黄鳥の聲して申さるゝは拙者等は本來舞蹈を實際に試るものジヤが某等の申すような事は夢斗りもない反つて其利益は中々數ゑ擧られん程じや（ノウ〳〵）貴婦人方は之が爲に餘程丈夫になつて近來の顏色の好い事チウモノは決して昔し深窓にお出になつた時の比ではないて第一健康に宜しひ（ノウ〳〵）交際に宜しひ（ノウ〳〵）之で淸潔な交際が出來んなぞと云ふは必竟影に居つて想像ばかりして居る者の言ふ事じや（ノウ〳〵）先づ遣つて試るが宜しひ（ノウ〳〵）先づ（ノウ〳〵）仕て（ノウ〳〵）見るが（ノウ〳〵〳〵）。

傍聽人何故に左樣にさわぐか失敬である靜かに致せ證人の方眞に御苦勞で御坐る當法庭元來寬大を主と致せば箇樣なる不始末をも生じ氣の毒に存ずる扨て以上の事件は倍審官たる讀者諸氏と協議の上判決いたすべき事と豫定いたしたる筈なれば追て再び開庭の上宣告致すべし」と申し一時法庭を閉ぬ

○和文學講義

第四回の下　和歌の事

鈴木弘恭

俊成卿女

「梅の花あかぬ色香は昔しにておなじかたみの春のよの月」

此の意は。梅花の飽かれないと思ふほどうつくしかりしも昔となりゆきて。今はないがそのとき共に見た春の夜の月と我とがかたみにのこりて居て。今夜も月を見ることであるが。とて月かげは今もかはらないやうであれど我が容貌は如何に衰ひ變りけんと歎息したるなり。

同人

「恨みずや憂世を花の厭ひ宛誘ふ風あらばと思ひけるをば」

此の意は。恨むまいことか。恨めしいことであるよ。此の世を憂世であるといひて。花が自から厭ひ嫌ひて。誘ふ風があらうならよいと思ひて。散り行てしまひしとは。さても薄情の花であると無情の花を有情にとりなしてよめるなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

攝政太政大臣

「わするなよたのむの澤を立雁もいなばの風の秋のゆふくれ」

是ハ歸雁の歌なり。名所の田能武の澤を頼むことに寄ていへるなり。意ハ忘れないがよい我が頼むことを。今此のたのむの澤を立て歸るかりかねも。夏がすぎて稻が熟して。その稻葉を吹く風の寒き秋の夕くれの頃ハ。必ずまた鳴て來るべしとなり。雁は春歸りて秋來るものなれば。今より秋來ることを忘るなと命令したるなり。

正三位家隆

「さくら花夢かうつゝか白雲のたえてつれなき峰のはるかぜ」

此の意ハ。盛りなりと思ひて見た櫻の花ハ夢で有たか。現で有たか。アヽはかなきものであるよ。昨日まで白雲のかゝりて居るやうに見えたその雲がなくなりてしまつたが。大かた風が吹き散らしたのであらう。さてもつれない峰のはる風ではあるとなり。

權中納言定家

「名もしるしみねの嵐に雪とふる山さくらどをあけぼのゝ空」

此の歌ハ。尤も巧をもとめたる歌にてやがて俗にいふなぞなぞといふものに近きほどの歌なり。此集の戀の歌の中にはかやうの躰尤も多し。「我戀は松をしぐれのそめかねてまくずが原に秋かぜぞふく」などいへる歌の類なり。さて是は定家卿小倉山の山莊にこもり給へりける時の歌にて。小倉山といふを小暗といふ意によせてよまれたるなり。甚だむづかしき歌なり。此の意は。をぐらといふ山の名もよう分ることである。吹きさそふ峰の嵐の風に雪のふるが如く散りて。うす暗き花のそのさくらどをあけんとする明ぼのゝ空はとなり。

まづ是等の類なり。あまりに巧みをもとめんとすると。かやうに虛飾に流るゝものなり。能く考へて見よ。峰の嵐のために雪の如く花が散りて。その散る花の爲めに空がくもりて薄暗くあるなどとは。虛飾も又甚しといふべし。然れどもわざと詞を強くいわんとするには。かくあるべきことなり。是れ則ち抑揚あれば強て惡しといふには非ず。此例も多くありて。偶には古人もいへり。又詩などにも「白髮三千丈」などいふが如し。是れしかしながら歌の本意には非ざれば。初心のうちはたゞやすらかに。思ふとを述るを旨としてかへす〴〵も素直によみ出づべきことぞかし。さてやう〳〵に口に馴ての後ハ。かゝる巧みある歌をもをり〳〵に詠も妨なけれども。今の歌よむ人を見

るに。とかく最初より人を驚かさんと構へて。譯も解らぬうちに歌集などの中より珍らしき詞どもを取り出て。並べ立るゆゑに。或は木に竹をつぎたるやうに見ゆるもあり。或は本居宣長翁のいはれたるが如く。ぬえうたとみゆるもありて甚だ拙なきこともあり。ぬえ歌とは。繪にかきたる鵺といふものは。頭は猿にて。胴は虎。尾は蛇なれば。歌の首尾本末の揃はぬことをかくいへるなり。是れ我が見聞のまゝに正直によまずして。さかしらに表面を飾らんとする心より起る歌病なり。貴嬢等よく注意して鵺歌などよむことなかれ

○越路太夫の淨瑠璃

近來越路太夫の名都下に喧し一度び之を聞かさるものは以て恥辱と爲すに至る女學氏一夜行て其藝を試み慷慨すると稍や久しかりき昔し少將秀康は阿國が舞踏を見て號泣したり吾人越路太夫の淨瑠璃を聽て亦同樣の感なきを得ざるなり蓋し之れ日本第一の語手にして音聲の一起一伏する所ろ人を弄し得て丸を掌中に轉ずるが如し乍ちにして泣かせ乍ちにして悲憤慷慨せしむ聽くもの殆んど聲音の演劇を観るの想あるなり而て女學氏は太夫が最も得意とする半七の語物を見留めて特に一遊を試みたるが故に感服する所亦一層の深きを覺へたるものと知るべし然るに當夜その聲を賞し其音を美とし其起伏波瀾變化出没の常なきを感ずるの外に於て更に一事の尤も心情を刺したるものあり三勝半七酒屋の段園女の獨語に云く

今頃は半七さんどこにどうしてござらうぞ今さら返らぬ事ながらわしと云ふ者ないならば半兵衛樣もお通にめんじ子迄なしたる三勝殿をとくにも呼び入れさしやんしたら半七樣の身持も直り御勘當も有まいに思へば〱此園が去年の秋の煩ひにいつそ死んで仕まふたら斯した難儀は出來まいものお氣に入らぬと知り乍ら未練なわたしが輪廻故添ひ臥しは叶はずともお傍に居たいと辛抱して是迄居たのがお身の仇今の思に比れば一年前に此園が死る心が附かなんだこらへてたべ半七樣わしや此樣に思ふて居ると恨みつらみは露程も夫を思ふ眞實心猶彌勝るうき思ひ……

當語物の精華たる此の數節に至りジット腹の中に据へ兼ぬる事が出て來て眞に不平の念に堪へざりしとなり蓋し園女は尤も娘らしき愛情に夫を思ふ眞實心を合はせて之に耐忍と云ふ德を着けたり中々點の打所のない好い女とは申すべき乍ら其の耐忍の爲方其心得の向け方は昔に於てこそ以て貞操節義に適ふものと爲たれ當今の女道に取ては決して賞むべき所の行

を爲したるものにあらず夫たるもの既に姦淫を侵して在るまじき不義の淫事を爲し居らば何も之がお氣に入るとか又は之が所に辛抱するとか申すようの勉强はなくても宜しサッサと思ひ切りて當方より離縁を遣ハすと眞に自分の淸潔を立るものと云ふべし故に當今に於ても園女の如き人物のあらんとは固より希望して止まざることなれども其心得方に至りてハ亦た明治時代は明治の時勢丈けに變つて參らねバあらずこれ實に今時の女たるものゝ心得る所ならん然るに凡そ淨瑠璃なるものハ先づ女方が尤も多く好ませらるゝ所にして而して其淨瑠璃の中に現ハるゝ貞女節婦と云へバ大抵右に述ぶる園女の如き耐忍辛棒の極度を爲し遂げたる者を申すことなれバ女方が越路なんどの巧みなる語物にうか／＼として知らず／＼あのような女になりたいなどと思ハれては大層なる女學の妨である越路の聲音は賞すべし淨瑠璃の名作によりて古の人情を味うとも宜し但し決して其中に現ハるゝ人物を手本とすべからず大抵ハ此の文明時代に適せざる卑屈下等の心得を持たる女原なりと見下て御遠けありて然るべき者なり就て願ハしきことは演劇小說などの改良を試みらるゝ閑人の方々は何卒此淨瑠璃の改良にも着眼ありて先づ第二の近松、シェクスピアを明治に起すの工夫あらバ女學上に取て眞に有がたき事なり。

The Virgins are Soft as the roses they twine. *Byron.*

○批　評　（第二十四回）

(28) 奇思妙構 色情哲學　（中本一册（百七十七頁）定價六十錢　發兌所東京本町三丁目　金港堂）

此書は甲田良造氏が一派の哲學を新工夫して從來人々が公に述べ得ざりける色情を理屈に合ハせて說明ありたるものなり其志や甚だ宜し是迄邦人の夫婦間に眞正淸潔の愛情の行ハれたること眞に稀なり大抵は只だ肉慾の奴と爲つて雙方の下賤なる望を滿足する迄に止りしかバ偖ては愛若くは色情など云へることを以て公に述ぶるを耻づるに至りしならん故に此際眞正の愛の手本を示して淸潔なる色情の由て起る所を論ずるは隨分に大切なることなり此書の著者が先づ之に着眼して此哲學を工夫したりと云ハゞ眞に嘉みすべきものと云ふべし。但し凡そ此類の書を記す者ハ先づ文章を嚴格にし假にも讀者に浮たる志念を起さすべからず次に引例する人物を撰みて決して下等なる社會の人々を用ゆべからず記者若此二事に注意せずんバ其志や甚だ好く趣向も亦面白からんとも不幸にして其望む所の良果を得ざるべし況んや志す所も亦全く純粹ならず趣向も往々感服すべからざるものあるに於てをや。吾人此書に就

て評する時先づ其右に述る二事の注意を缺たるを憾みとせざるを得ず文章艶麗にして輕軟綿の如く卷中に出沒する所の佳人才子は多くは是れ遊女破戒の僧なり殊に著者元來西國の志想に乏しく所云るラブなるもの丶高尚清潔なる性質を知らず尙ほ彼地に數多ある相思相愛者の一人をだも引例せざりしは中に就て最も大なる所の缺點ならん故に人ありて色情哲學は東京新誌を種として歸納したるものなりと云ハんに著者も亦首肯せざるを得ざるべし

(29.) 淑女龜鑑交際之女王 （中本一册(百五十二頁)定價六十錢 發兌所東京通四丁目 金櫻堂）

此書は文學士坪內雄藏氏がローランド夫人の傳記を纂譯ありたるものなり然るに之を去年八月比大阪帝國印書會社にて出版したる坪內氏著朗蘭夫人傳と比較するに文章趣意寸毫も相違なく相違する所は只僅に木版の粗圖數葉を插たる迄なり卷末に版權讓受の事も記さず新聞紙の廣告に改題の旨を報ぜず而して其實際如此と認れバ吾人大に疑ふ所なきを得ざる也

(30.) 改正增補文法口授 （和本一册(二十一葉)定價十八錢 發兌所東京日吉町 女學雜誌社）

此書は鈴木弘恭氏が曩に著述ありたる文法口授を更に增補改正し一名和文獨案內と稱して學校用の敎科書に宛て作られたるものなり弊社出版の書なるが故に例に依り自ら評せず但だ福羽美靜君の序歌を掲げ一切の批評を讀者に委かす

いひつゝけ語りつゝくる言の葉の道も行よく世は成にけり

○南翠外史著新粧の佳人は次號に於て批評すべし

●佳傳

○ブラウン女史の詠歌　M. U.

アメリカ合衆國にミセス、ブラウンと呼べる賢婦人ありけり一千七百八十三年五月一日ニウヨーク州のカナン村に生る家貧うして學業に從事すること能はす困苦のうちに人となりしが十八歲の時はじめて文字を讀むことを學びたりブラウン女が生涯の間だ學校に入りて師に就きたるハ僅かに三ケ月に過きずとかや然れど天性の詩才ハ永く埋れ果つべきものに非ず洒掃保育の煩累繁きがうへに貧弱の身ハ風塵に惱まさるゝこと甚しかりしか女紅の餘暇に成れる詠作皆金玉の如く遠近之を傳唱するに至れり嘗つて友人ナーリンの書に答へて曰く余が一生の歷史は簡單に述べ盡すを得べし余ハ神の恩惠に由りて救はれ艱難に由りて潔められたるものなりとブラウン女の素行越歷實に此言に差ふ所なしと云ふ其子エス、アヽル、ブラウンハ慈母斷機の敎と其の祈禱の養ひを蒙むり母と同しく艱

難の中に生れ艱難貧苦のうちに人と成りしも終に學業を卒り博士の地位に登り東洋の支那日本に於て基督敎の爲め及び學術のために甚だ名譽ある事業を務めたりブラウン女生平閑かある地に行きて祈禱と思想とに心を專らにするを喜び家事の暇屢郊外に遊ふことあり或る口さがなき人之を見て彼は貧人にして子さへあるに懶惰の行ひ斯の若しなど喋々しく之を言ひ囃しけりブラウン女則はち左の一詩を作りて貴婦人某に寄せて己れの志を述べたり字句玉をなし感情溢るゝか若し英米諸國の士人好んで之を朗吟するも宜なりと云ふべし（八六の調を其のまゝに譯したれは字句雅馴なるを得す讀者之を諒せよ）

I love to steal awhile away. (C. M.) Mrs. P. H. Brown.

一ゆふぐれしづかに　いのりせんとて
よのわづらひより　なばしのがる
二かみよりほかには　きくものなき
木かげにひれふし　つみをくいぬ
三すぎこしめぐみを　おもひつゞけ
いよ〳〵ゆくすゑの　さちをぞねがふ
四うれへもなやみも　わがおいする
かみにまかせてや　やすからまし
五うきよのあらしに　たゞよふときに
天のひかりをみて　いよ〳〵いさむ
六身にしみわたれる　このゆふぐれの
えならぬけしきを　わすらふべきや
七このよのつとめの　をはらんその日
いまはのときにも　かくてあらなん

○貧女サラ、マーテン四人を敎育したる事

貧者の一燈は富者の万燈に優り窶婦が捧ぐるレプタ二つは總ての義捐に越ゆ故に凡そ慈善の事は必らずしも富で且つ其力ある者のみの務にあらず苟くも世の貧人を憐れみて之を己の曲れるが如く覺え一向に誠を發して之を助け矯むるとを心掛るものは既に能く眞正の慈善を行ひたるものと云ふべし特に斯ありてこそ初て慈善心より出る幸福を人に及ぼしてよく之を富ましもし又正しくもするものあり貧女サラ、マーテンの事以て之を證すべし

今を距る凡そ一百年の昔し英國ヤーモウスより一里あまり掛離れたるカイステルの村に貧しき指物師ありけり其が一人の女サラー、マーテンと云へるは幼年より早く兩親を失ひて老

ひたる祖母の手一つにて育ちたれバ固より教育など豐かに受けたるにあらず僅かに村の小學校を卒業したるのみとは語り傳へぬ其が上十四と云へる比より物縫ふ業を覺へて日毎に人の賃仕事を爲しやうやくに其日の生計を助けたる程なれば固より自ら讀書すべき暇もあらざりしならん然れど天性慈善の心に富みて人を憐れむの念常に禁じがたし特に其近邊に一つの牢獄ありて數多の非道人を囚へ置ける有樣を見ては常に絶へず之を慷慨して如何にもし之を正道の人に反へしたしとは念願したり

抑も此の牢獄に囚れたる罪人等は日々博奕遊事に光陰を消して彌よ暗黑の所業を樂しみとし互ひに惡口雜言して恰も修羅城の樣を現ぜり特に獄内に一の穴藏あり光氣とも通ぜざる苦しげの場所とハ云へど罪人等は決句之を住ひよしとして茲に竄居し殆んど人間の樣あらず暮したりとぞ斯るが故に大凡そ此罪人等を憐れみて何物をか與へんと云ハん人は障りなく此處に來り得べしとの定あるも一人として之を顧みる者なくヤーモウス郡中に一箇の地獄ありとて近くものすらあらざりしとなり

然るにマーチン女は夙に之を歎き其十九然も妙齢花を羞しむと云へる頃ほひに當り自ら志を記し置ける文中既に左の如き辭を遺したり

妾此の獄の邊を往來せるとき常に思起せるは願くは此内に入りて聖書を人々に讀聞かするの許を得たし罪人等が暴惡の内に群りて彌よ神の御前に罪を侵すとを思ひ又社會より全く遠ざけられて人の顧をも受けず斯る折に只だ其心を慰むべき宗教のさとしをも聞くを得ざるとを思ふときは妾が心張り裂くが如き心地せり

斯る志を有ち乍ら家事の思ふやうに治らざるなんどよりして心ならず幾年を過したるが或る時實の生の子を殘酷に取扱ひたりとの罪を以て此獄に繫がれたる母のあるよし聞て今は寸刻も忍びがたく遂に身を奮つて獄内に道を傳へんとの志を定めて其由を願出でたり時にマーチン女二十八才の頃ときゝぬ然るに最初の願出は聞屆けがたしとの心なき指令を受け乍ら再應の請願に漸く許可を得て獨り暗黑なる牢内へとは趣きぬ時に先づ彼の非道なる母親に面して其來意を告げられたるに女は暫し忙然として驚き居たるがマーチン女の誠を感じて突然慟哭し己が罪の大なるを悟りて只管ら教示を感謝したりとなん(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

米國婦人禁酒會々頭ウイルラルド孃肖像

米國婦人禁酒會の會頭として二十万餘の女流を總理し米國諸州至る所として其名を唱ふるのみか全世界にも女丈夫の稱を得たるフランセスウィルラルド孃は當年四十八才未だ嫁せずしてミスと名乘らるゝ方なり初めノースウェスタン大學を卒業して後ち所々の學校の教師となり終にエバンストン女大學の總理に撰ばれ其后千八百六十九年より七十一年まで殆んど三年の間は歐羅巴諸國及びパラスチナ、エヂプト等の名所に遊び歸られて后はシカゴにて引續き當世の任侠風と題する演説を爲さる其外時々の論説はユニオンシグナル、シトウクワン、其外に出で又取集めたる著作も少からず

抑も此ウイルラルド孃の家は代々有名なる人を出し其中にて議官大學教授又は總理等並に牧師等の要職を占られたる方あり遺傳の素△

△如此く厚きが上に先祖よりの遺言として辛抱艱難は歡樂の種なりと云へる一義を確と守らるゝと云へば孃の如き人物を出せるも亦因縁する所あり特に孃の母ハ平生自由に孃を教育して幼き比より假初にも其心を曲げさせず常に述べらるゝ樣は女子を教育するは恰も木を育つるが如し之を自然の良心に由て生長せしめ自ら男女平等とあるに至らしむべしと又曰く政事上の弊風を正し政府の偏頗を矯め公道清善の働をして人民の間に達せしむべしと母の教へつねに如此ありしかバ孃は幼時より既に異日婦人矯風會を起して世を轟かす偉業を爲し遂ぐべき資格を十分に養ハれたるものあるべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●小説

○薔薇の香　月の屋しのぶ

第二回　家族の愛

日は入合の呉竹を根岸にまとふ一と搆閉ざさぬ門は自ら風雅を見する二階づくり結搆廣からねども相應の主人公とは知られたり庭前の櫻月光に映じて下影更に白く飛で入る花ヒラヒラと落て時あらぬ冷しみを寫す時に特更に暗うしたる行燈の邊に腕叉きたる少年あり火影に見ればにや面色雪の如く眉は秀でゝ墨もて畫けるに似たり鼻下の髭かすかにして腮より垂るゝ髯毛やゝ長し威貌嚴として侵すべからざるが中に何となう物柔かなる樣の見ゆるに終始首を垂れて物案ずるの風あり景色を詠めてヂット見つめ乍ら時に吐息つきて哀れ氣の風を爲せば見る人として共に悲しまぬはあらじとぞ覺う又椽側に腰打かけて折ゝ後邊を見顧るは其母にやあるべし年齢四十の上を二つ三つ越したりと思はるゝ後室風にて小さき丸髷頭の頂點に立登りて自ら高等の風を示し面長く齒黒くシャンと締りて之れ亦輕んずべからざるの樣あり余り久しく無言あればにや振り反りて少年に言ひかくるやうは

お前もモー二十五にお成ジャーないか年で云ふても早いともありますまい特に早世の中に出て事業をお執りだから是非お前の片腕にもおつたり又家を脩るために無ればなりますまい何時まで書生じやとお言でも外でそう思ないような地位に爲たら矢張其樣な見搆を爲なければなりますまい。

お母樣の仰います所は一ゝ御尤で決して違背致します心得は御座いませんが何分まだ心に安んじない所がありますし特には第一嫁にしたひと思ひまする人をまだ一人も知りませんから、と申まして自分の好ます者を勝手に擇んでお母樣のお指圖を受ませんと云ふのでは御坐いませんが何分私も夫婦の間柄の事や家族の事などは八釜しく演舌致した者で世間では之でも女權論者と云ふものゝ中に算へて呉ますそうですからドゥカ此等の人に對して恥かしからぬ妻を持たいと存じ切めて口に議論しました丈の事を實行するとが出來る程の相手が欲しいと存じまするは眞に高慢かは知りませんが常に決心いたして居りまする所ゆへどうも左ほどとも思はぬ人を貰ひ受くるとが出來ませんからつい〳〵お母樣には心配をかけまするたゞは老年にお成りなすつたをはあんしんをもおさせ申さず我儘の事計り申まして家の脩め方には苦勞願ひます事が……

イエ〳〵其樣心配はいりませんが兎角お前は物事に欝しますから早うその心を慰る人が出來ましたらと思ふからの事ですそうお言のを聞けばまた其樣な理屈もあり第一今時は昔しと違つて居りますから決して母が嫁を擇んでお前におし付るやうなことは出來ませんがどうぞお前早く好い人を見付て下さい氣が欝したり勉強を仕過したりして病を起してはありませんから

ヘエ、イエ全く心當りが無いのでも御坐いませんから其内御安心をさせ申しまするとが出來ましよう、どうぞお母樣もまたそんなことをお氣におかけなさらないように………夫にしても淸はもう今年の夏で卒業で御座いますが女は男と違ひ早う方付きませんければ成らぬものですからアレもどうか好い口があれば宜しふ御座います

左樣さねー然しアレも兄樣にお嫁が出來て第一母樣が御安心をなさり……またお前の氣が霽るやうに爲らなければ何方へも行く積りがないと……言ふて居ますそうなまだ小供の樣に思つて居りまする内に那の樣に立派に成りましてそして大層優しくなりましたよ

大方學校の敎へ方が善いので御座いましよう　お母樣今日私の所に參りました手紙はまだ御覽に入れませんでしたかな

ト書齋に置いたる一封を持來り行燈の戸を揚げて燈火をかき立て膝進ませて、前の方はまづいろ〳〵の事で御ざいますから此處から少し讀ませう、と半ば過るあたり迄卷き乍ら

母上樣御事まだ御老年と申すには候はねども何分早く父上に御別れ被遊手一つにて妾等兄弟を御育て被下候ひしより日夜の御苦勞にて特の外心を痛め玉ひお年よりは老けて見へ玉ふも必竟は妾等兄弟を愛し玉ひしゆへの事特に此頃は御氣も勝れさせ玉はずとやまことに〳〵思へば一日も斯ふして居られぬとと日に幾度か心みだれて書物も手につき不申候

マア淸は何たるとでせう母を思ふて呉るのは善いが切角兄の心も知らずナゼマアそんな事計り心配して勉強が出來ませんとわマア淸は。イエ〳〵おかーさん次ぎを御聞下さいまし

然しかね〴〵兄上の御言葉もありさすが靑山哲の妹よと人にも笑はれず兄上の御恥ぢにも爲らぬよう相成度ど心懸候へば今少々の不孝は平に御ゆるしを請ひ申度ことに此夏にて試驗さへよく〳〵ば卒業のとゆへ左候上は日に〳〵御傍に在て御介抱も出來候半と今よりそれを樂みに忍び居申候

ホンニ能ふ言ましたそうですとも決して〳〵此母の事で勉強を止めなどしてはなりません
たゞ〳〵御案じ申上候は兼〴〵母上の御すゝめもあり特に此頃の樣にすぐれ玉はねばとて例のように
ナニ例のように、母樣少し此の處がよめませんが
ナニ〳〵被成候ときかねて兄上の御志はあらせあがら母樣の御心を休めたいとの御孝心ゟ若や曲げて心あらぬ御緣を早う御結びなどありはせぬや之のみ心配いたし候之とても妾が早う歸りまして母樣の御世話申上及ばず乍ら兄上の御助けも致さば雙方の御志も立るとあれども前申上候ようのとにて今少し學校に留ると神の御心とも思ひ候まゝ畧ぼ決心は致候が何如いたさば宜しきものにや此へん至急御敎示被下度候〳〵

此時行燈の戶パタリ　チヤ〳〵

●寄書

右は去る九日上野音樂取調掛演習會に於て林蝶子幸田延子の兩孃が唱歌ありたるものにて同掛敎授鳥居忱氏の作あり今請ひ得左に掲ぐ

○螢狩　　鳥居忱

ほのくら〳〵。水神の森。あたりは。はやくれ初めぬ。庵崎の。墨田の川の。澪のぼる。屋形船。夫「吾妻。螢狩せむ」婦「何處に螢狩せむ　夫「綾瀨の川の上つ瀨」婦「はや〳〵もいゆきゆきてむ」綾瀨の川の離洲の蘆間婦夫「螢」夫「ア、」婦夫「螢」婦「ホー、螢よ、ホ、ホ、螢來よ」うつらふ影の凉しき瀨や、水におちて飛ぶ螢、婦夫「ア、面しろ婦「ての團扇かしてたべ」夫「かさむ婦「あのVeil(西洋婦人の面部を覆ふ薄絹)とりてたも」夫「とらむ婦夫「こちへ來よホ、螢よこちへ來よホ、螢よ」婦「團扇もてアレ撲たむ」夫「ソレ撲て」婦「ソノVeilにつゝみてよ」夫「よし」夫婦「この包みし螢何にや、何にせん婦「オヽ」夫「ナニ婦「ソレ婦夫「文讀む子等の家苞にせん」

此唱歌は二部より成り立つ者にして婦とあるは高音部夫とあるは中音部なり夫婦と印しあるは高中二部合唱し又何をもなきは地の文なり

○進めよの歌(長榮女塾々制)

長榮女塾々長　湯井柞撰

進めよ進め　をみなこら　力らの限り　身をくだき
萬の國と　諸共に　立並ぶまで　進むべし」
進めよ進め　國のため　夜を日につぎて　怠るな
夜光の玉も　磨かずば　如何で光を　輝かさん」
進めよ進め　家のため　文の林に　分入りて
我日の本に　咲香ふ　櫻に恥ず　榮ゆべし」
玉の光りも　花の香も　いつかは共に　消失せて
殘るは人の　名のみぞや　進めよ進め　をみなこら」

女學雜誌の精神

綱島佳吉

嗚呼余が愛する女學雜誌よ余は汝が夙に我國女學の振起せさるを嘆し我女流の腐敗を憂るの餘り蹶然社會の中央に顯出し女流改革の旗幟を飜すを見て心竊に欽慕に堪へさるなり

汝生れて未た千日を經さるに其生長發達の迅速なる殆んと人をして眩惑せしむる者あり看よ我邦土にして今汝が驥足の達させるところ何所にある我同胞にして汝が清音を聽かさる者何所にある汝が東都に發するの聲は疾風よりも早く其朝に汝が膝下を離れて夕に西海の子女を慰藉し今日汝が吐露せし言語は明日北海の懦婦を勵すに非すや嗚呼今や汝が雨露の恩澤を蒙り將に歡喜の眉を開かんとする者我同胞姉妹中蓋し幾萬人なるを知らす汝が業も亦た偉大ならすや

夫れ陰雲日を蔽へは天光を失ひ肉慾權を恣にすれは道心衰ふとは之れ世の通則なり汝ち今日の社會に立ち今日の主義を貫き今日の改革を成就せんとすれは余は汝が責任の重大なると倶に汝が歩むへき道路に無數の荊棘ありて其進行を妨碍するを知らしめさるへからす汝ち知るや否今日の我社會は混沌濁々一種奇怪の混合物にして泰西文明の外套の下に東洋古來の壓制卑屈の隱伏するを燦爛たる瓦斯は大厦高樓の室内を輝し赫々たる電燈は屋上に天日を欺くと雖も其人心の内部を解剖し來れは恰も新なる墳墓を發きたるが如く紛々たる腐肉惡臭の鼻官を衝くものあるを流行の風に吹され巴里の葡萄酒に醉ひ轉々翩々舞踏に熱注する小數の貴婦人あるも一室に幽閉せられ外界に絕たれ身の鐵鎖に繫がれさるを以て無上の快樂と爲す無數の姉妹あるを千古未曾有の國會は輦轂の下に開かれ人民政務に參與して其政機を運轉するの期は三年内に迫るも惡むへき蓄妾離婚の弊習は日に社會に跋扈し愧すべき靑樓妓館は日々として日本の雲際に聳るを熱血を吐露して公賣淫廢禁の可否を討議し其の一日も速く我社會に跡を絕たしめんことを計るの基督信徒あるも一般の道德上輿論の微弱なる未だ明治政府をして一夫數婦を是認するの法律を變更せしめさるを世の境遇社會の狀景それ如此し奚そ汝が進路に雲霞茫々魔軍の峙立するありて或は界し或は惝し或は析檻し或は慰藉し或は蜜の甘味を以て汝を岐路に誘導し或は鐵鎖の脅迫を示して箝制せんとするを之れ怪まんや余は汝が先驅斯る街衢に幟旗を飜し其無數の强敵と相對するの勇を見て欽慕措く能はさるなり然れとも亦た今より汝が遭逢する夥多の激戰奮鬪の危難を預想する時は悚然として膚に粟の生するを覺ゆ汝ち豈に勇を皷し氣を勵し百戰百勝以て汝が幟旗の光榮を四方に發射するの希望なくして可ならんや希望なくして可ならんや

余は過る頃汝が其筋より發行停止の命を受け自今休刊するとの凶報に接し疑團の氷解せさる者なりき蓋し平素謙讓溫柔の衣類を纏ひ女權の伸張を以て主義と爲し女學振興を以て目的と爲す所の女學雜誌にして突亢過激の政論を吐き社會の秩序を紊亂するが如き擧動のあらざるべきは余の信して疑はさる所なり然れども既に發行停止の命を受け其休刊したるの事實を見れは必ず法律の絆に觸るへき讒誣無稽の暴言をば吐露せしならん去來是れより其れを調べんものと急き其第六十五號を繙ぎ其の初より終迄再三再四通讀せしに齊姦淫の空氣てふ一篇の社說の或は其筋の御氣に觸れしならんかと思惟せらるゝの他に一點一畫の法網に觸るへき恐れある字句の紙上に埋伏するを見出さゞりし然らば則ち彼の姦淫の空氣てふ文章こそ汝を法律の鐵鎖に繫ぎし無慈悲の紹介人にして汝を愛讀する數萬の看客をして眞友去て後寂寞の感を抱かしめ其の机上汝が占むへき位置を空しからせし大罪人なりと云はさるへからす嗟呼姦淫の空氣てふ文章の罪重大なる哉

然りと雖も已往は咎むからす如此き汚穢の文字を登錄せし汝の運命こそ不幸なれ今更臍を噬むも何の益かあらん唯已往を鑑み將來に愼み重て斯る文字の汝が紙上に橫行せさるに注意するの一事あるのみ汝ち果して姦淫の空氣てふ如き論說の再ひ汝が紙上を蹂躪するの無禮を許さゞるの覺悟なる乎汝ち果して此の覺悟あらは余は今回汝が法律の罪人となりしは之れ寧ろ項門の一針砭汝が發達の吉兆なりとして祝賀せさるを得さるなり余茲に於て結尾の數言を附し將に稿を終らんとせしに忽ち背後に人あり大喝一聲余に放言して曰く汝ち知るや否予不肖なりと雖も夙に社會の耳目を以て任し自ら女學振興の旗頭に立て女權擴張の檄文を天下に發表せり今夫れ予が麾下に集る者已に萬を以て數ふ今日の時期に際し今日の準備あり何ぞ區々たる人爲の法律を怖て社會の大道に傍若無人の擧動を爲す邪淫惡習を筆誅せさるの卑法を取らんや姦淫の空氣てふ論文は愚か苟も論理の大本を破り女權伸張を妨碍する魔鬼の社會に橫行せん限りは余は筆鋒を鋭くして之れに當らんとす從令ひ白刃の眼前に橫るあるも固より余の甘する所なり足下切角の忠言は余に取りて有難迷惑片腹痛き次第なりと余此の大言を聽き茫然自失暫時にして背後を見れは豈斗ん先に人聲と想しは之れ余が書箱に堆積せし女學雜誌の不平言なりしを余茲に於て不覺案を打て三嘆し曰く快なる哉愉なる哉余今始て汝が精神衷情の在る所を知れり余豈一言の汝に呈せさるを得んやと遂に左の數言を加ふるに至れり

余は四面寂々大空朦朧の際蹶起社會に突出せし汝が勇を見て嘆美措く能はさりし然れども斯る不抜の精神の汝が心中熖々たりしは余今ま以て之を知れり亦余何をか怪まん實に汝は頼母敷改革の友なる哉其の苟も倫理の大本を破り女權伸張を妨碍する魔鬼の社會に橫行せん限りは余は筆鋒を鋭くして之れに當らんとは汝が規摸の偉大なるを示し其の縱令ひ白刃の眼前に橫るあるも固より余の甘する所なりとの一言は以て汝が歡凱を奏する未來の決戰を卜すに足る者あるなり汝記臆するならん汝が愛友ペルメル ガゼットは曩に倫敦華街に密賣淫毒習の竊發を爲し爲に獄裏に呻吟せしことあるを未た知らす汝が進路同し命數の窟穴あるやを然りと雖も信せよ疑ふ勿れ汝が苦戰奮鬪の山を越へ狂瀾怒濤の死波を蹴つて彼の港灣に達する時は魔軍滾々の死地に沒し赫々たる凱旗の光榮は汝が頭上に輝くの樂日あることを

○レビット夫人の書柬

○六月四日印度バルマ發レビット夫人の書狀此頃磯本方へ相達したり書中公に示して有益なる分のみ左に抄譯す

(上略)愛弟には彌よ主に仕へて怠なき由此上もなきとに存じ一ツには主に感謝し又一ツには政府の許可を得て娼妓廢止の事に盡力せんと御奮發有之候愛弟の聲に合はせて感謝いたし候過る千八百八十六年四月英國に發布相成候此一件に關係の例は不正なるのみならず全く無益なりとて既に改令に相成候とは御洩しなく廣告ありたく候(編者云く此事は既に本誌第四十一二の兩號に具さに記載せり讀者の一覽を乞ふ)サンゲル氏の著書は未だ一覽致さず候へども其確實なるとは娼妓廢止の論者が多く引用候を以て明知致し居る所に候(次にブラックエル氏著書の事あり之を略す)議し幼年輩にさま〴〵の邪まなる事を教ゆるに對して善良なる事をすゝめ勵ますとは實に緊要と存じ候又男子悉く潔白なる時は女子悉く恐れなかるべしとの主義をつね〴〵御記臆ありたく候。舞踏の事については既に英米兩國の上流社會中數百万の者が之は野蠻時代の餘弊と見做すのみか社會に汚毒を流す元因なりと信じ居り候を日本の紳士貴婦人が反つて開明の要領の如く思ひ僻がめられ候は如何にも殘念に覺へ候近年社會に行はれ候舞踏の風は少か謹みある婦人の其席に侍べるだに身ぶるひするを免かれぬものに候わが一族即ちわが祖母、姉妹娘、も亦われも舞臺に登りしとなきものなるとは甚だ喜ぶとに候。願ば申し候とをながら凡そ外國の風俗を分別もなく丸呑に致し候事は何如にも痛ましきとに候はずや善き風俗こそ見倣ふて宜しけれ悪しきものは其まゝ打棄て置くが道理ならんと存じ候。婦人服裝の改良につきては大概高說に御同意申上候(卑見とは本誌第五十三號に論述したるものなり)冬は毛糸編みの長き靴下但しヲヤ指の剖りたるものを足袋の下にはきペッテコート(之れ亦五十三號に圖したり)を上に穿ち候へば廚も出でず溫かさも十分と存じ候然し極て重大なる道德上の議論を主張せざる可らざる身にして區々たる改良をすゝめんとして人の心をそこね抵抗を引起すとは賢こからぬ事と存じ候又西洋の服裝に三四の弊害御座候て英米の改良に志ざす者が廢せんと盡力致しをるものに候第一に服裝の全躰に重過る事第二に腰のまわりの重き事第三に靴のかゝとの高過る事及び指のあたりの細過る事第四にヒダ飾りの多過る事に候私の着衣を御記臆ありたらんには右に申上候第二第四の弊は免れあり候とを御覺へなさるゝならん但し第一第三は未だ免れ居らず候なり。束髮は每朝新にして時間を費さぬ結ひ方が婦人のたしなみに要用と存じ候例のベルメス形(即ち渡邊結び)は私の好むに所て日本婦人にもよく似合ひ申よう覺へ候其結び方はもとゞりを頭の中比にとり夫よりじ捻りて丸ろく卷くとに候。(次に演說の事あれども略す)私と日本に滯在致候事より起りし感化のさまで廣ろかりしとは誰んで感謝する所に候公衆の前に演說致せし言葉の空く失せざりしは單へに神の力と愛弟の盡力によるとと思ひて感謝に堪へず候右演說の草稿は自由に御用ひあり度尙ほ新なるを草して差上度候へども多忙なるよりして意の如くならず候。バルマに着以來二つの會を設立致し候第一はモールメイン第二は只今滯在のランゲーンにて出來申候木曜日にはタングーへ出向き申すべし而して彼處にも又その外の町にも神の恵にて同じく會を結び度望み居候シヤムを巡回いたし候て宣教師並に同國婦人中に二會またシンガポールに同じく一會設立いたし候又シンガポールの會はマレー人種中凡盛り中すべくと存じ候シヤムの王並にジョホルの國主には拜謁致し候兩公とも禁酒家にて私の事業を贊成致され候。(次に寫眞及其令孃三人の事あり略す)左に記し候宿所附は本書着后數月間御用ひありて差しつかへ無之候云々(下略)

六月四日　君が友人　マーリー、クレメント、レビット

ADDRESS:— c/o Mrs. J. M. Thoburn, Jr,
150, Dhurrumtotlole St,
Calcutta, Indea,

●新報

○女學雜誌前號の社說　即ち外國人が設立する女學校に關する論說は在留諸外國教師の心を少か慰るを得たりとかや所々ゟ懇篤なる禮狀を送られ特に橫濱の某女學校にては之を英文に譯して米國へ差送らるゝよし汗顔の至と雖も寸志の到徹するを得たるは眞に感謝の思に堪へざるとなり

○成立學舍女子部講義錄　本誌の發行停止中より初て發行したる同講義錄は每月二回の出版にして弊社の通信女學同樣の教授を主とするものなり東脩五十錢月謝三十錢にて成立學舍々外生に配付す當今有益の雜誌と云ふべし

因に云ふ去十日發兌の同講義錄第四號に島地默雷氏の脩身講義あり其中に基督教が女權の進步を助けたりと云ふ普通の議論を駁して申さるゝに、舊約全書に神初め世界に一男を造りしに男子のみにては淋しいからとて更に男の肋骨を拔取て一女を造りしとあるからは男女を同等に見ぬ事は勿論でありますと之は御察の如く外に意味のあるとなれども假令ひ之を只在の儘に解するにせよ男の肋を取りて造りたるを以て同等と見做さゞるの證なりと云はゞ子供は一切母親の血を分て生るゝものなり之等は皆な人として母親と同等の人類に見立つ可らざるものに候乎其餘に引抄ありたる聖句の意義は先簡易なる註釋(コンメンタリー)書にでも據りて一應御取調ありては何如

○いらつめ　新保磐次正木政吉兩氏の發起にて府下湯島天神町の成美社より去九日いらつめ第一號を發兌さる以后每月第二土曜日每に出版の由にて一部八錢なり第一號發行の主旨其外の論說寄書等を見るに當今世の中に男女同權論甚だ橫行し彼の淑女を誤らせんとするの傾あるを慷慨し一時の止を得ざるに乘じて之を發兌さるゝやに聞ゆれども當今は明治五六年比に行はれたるに類似の同權論を主張するものあるを聞かず假令ひ之ありとも中々世上に勢力を得るなどの事あるべきにあらざれば餘り霧中に敵を打つの弊に激し孔明をして舟中に慨歎せしめざると緊要ならん右第一號を見て其の最良の朋友たるとを認め先づ友人として一言を呈し

置くもの也

○高等女學校　前號にも記したる如く去八日午前十時卒業證書授與式を行はる順序は(一)唱歌(二)邦語作文、柳田てい子紫式部の事(三)同上、岡本榮子同窓の友に別るゝ文(四)英語作文、松本榮子女子の職分並に別辭(五)ピアノ三人連彈、松本榮子大島久子上原顯子(六)文部省總務長扇辻新次君卒業證書授與

　卒業生　松本ゑい、柳田てい、岡本ゑい、高塚きよ、羽鳥うめ、梅田ゆう、前田しづ、太田ふき、星名りん、金井うめ、西村だい、今村やす、伊東みほ、菊池ます、

(七)唱歌、共に學びしの歌矢田部良吉君新作(八)文部大臣代辻君祝辭(九)唱歌」來客百名餘式畢て茶菓の饗應あり弊社よりは編者參會したり

一、ともに　まなびし　やまとぶみ。ともに　しらべし　あづまごと　あゝなつかし。そのむかしの。けふのわかれに　しのばるゝ

二、まつのみどりの　かはらじと。いひしことばはかたいとの。あゝともがき。そのちぎりは。かけてちとせもたゆせじな。

三、きみはつくしにわれはこし。くもゐはるかにたちわかれ。あゝとしつき。ひみぬとも。かりはゆきかひはるあきに。

四、しもにやつれぬしらぎくの。いろをこころよそのわざも。あゝつきひに。いやみがきて。きよきみきををよにのこせ

○西洋家風の練習　東京高等女學校にては曩に本誌に載たる如く今度日本風の家事は裁縫の一科に止め他は西洋風の家事を敎ふるの趣意にて同校構內へ洋風の家屋を新築し外國中等の住居に適當したる裝飾をなし外國婦人の敎師を住はせ成べく自國の生活を爲さしめ一個の西洋家風の模型を作り同校生徒をして親しく出入せしめ割烹裁縫接客の方法等を始め一切の家事經濟に關することを習はしめ凡そ十名の生徒をも寄宿させるの結構にて寄宿を望むものは來る八月十五日迄に願書を出す樣其趣意書を矢作主幹より生徒の父兄へ配布せられたるが一ヶ月の費用は凡そ二十圓計りなりと聞く

○櫻井女學校　之も前號に一寸申置たる如く去七日午後三時より卒業式を行はる順序は惣て廿四齣ありしが就中園兒の遊、幼年生徒の暗唱、物理學試驗、等は面白かりし又卒業生峯尾榮子ミスエダ龜山貞子三君の英文朗讀は出來甚宜かりしとの評多し但し式の少しく長きに失したるより途中にて歸られたる方の多くありしか遺憾なりき偖て同日卒業ありたるは

　英語科一名　峯尾榮子

　日本學科四名　提箸金子、長谷川北子、高野愛子、爪生重子、幼稚保育科三名　オリクハーエッタ、龜山貞子、長谷部萬子、

右の中峯尾榮子は去十三日築地十三番女學校の敎師某と同行にて三年間留學の爲め米國へ行かれたり當日來客二百余名弊社より編者參會したり

○東洋英和女學校　同校の閉校式も亦た去七日午後三時より催されぬ式は可成に長かりしが常ながら順序の整然として萬事の都合宜しかりしには感服したり若林柳子の英文(在學の日)榎本みゐ子の英詩暗誦(夕景)高順小夜子の演說(日本婦將の目的)種田道子の英文暗誦(物とは何ぞ)樋口ふみ子の英文(過去現在未來の日本婦人)其外諸君のピアノヲルガン合奏獨奏等あり特に德田春子の和文朗讀最初の英語對話等大に聽衆を感動せしめたり同日來客二百余名非常の盛會なりき

○長榮女塾　同塾の卒業式を去十一日午后三時より執行ありぬ同校は明治十六年に新設ありたるものなるが今度官許を得て尋常師範學校全科を敎授さることとし尙ほ預科をも置き校舍を新築して衣食を簡易の西洋風にし專ら生徒の德育に注意さるゝ由なり吾人ば本年一月に於て女子を敎員にするとの大利を論述し民間にも女子師範學校やうのものゝ多く起らんことを切望したるが今ま此塾が改良進步さるゝ所を觀て慶賀の思に堪へざるものあり偖て同日は大島やす子の演說島浪江子の祝文其外ありて後ち預科卒業生島浪江子に證書及賞品を附與ありぬ了て茶菓の饗應あり來客五十余名にして弊社よりは編者參會したり

○東京金蘭會　去十日東京金蘭會の第四回を芝の紅葉館に開かる內大臣の秘書官石橋政因氏專ら盡力あり來客二百余名席上音樂及岡山鍵吉土子金四郎末松謙澄氏等の演說などありて親睦交際したり本社よりは山村亮作參會せり

　尙同日歌ひたる金蘭會の唱歌は左の如し

第一　開てふ草もこがねをも。末をちぎれる友どちの。その眞心にたぐひつゝ。むつみあふこそ樂しけれ

第二　花のこずゑに鳥ぞなく。花の木蔭に蝶ぞ舞ふ。そのかまにくゝうち興し。共にあそぶぞ面しろき。

第三　君が代にあふ嬉しさは。思ふ友どちよりつどゐ。むつみかたらふ赤星の。あかぬは今日の團居なり。

○東京婦人敎育會　前號に記したる如く去三日大學講義室にて演說會を催されたる題號の會は左の八名を幹事とさるゝ由なり即ち伊澤千代、原田りよう、戶田てふ、貫名あや、高橋きん、永井つね、村岡ひさの、山田ちよ、木村さぞ、四宮とも等の諸君也

○神戶英和女學校　同校の卒業式を去る廿九日執行ありたる旨報告あり同日は森ちせ子の英文(侍なきは世なる哉)村井好子の和文(何ぞ空しく立つ乎)川本崎子の英文(確實と傾固の辨)渡邊床子の和文(人生の砥礪)村井好子の英牘(離別の告文)森ちせ子の同上並に川本たつ子の英文(主の爲に)等あり後ち本間重慶氏卒業生への告辭ありて村井よし森ちせ兩君へ卒業證書を授與ありたるよしなり

○音樂演習會　去九日午后一時より音樂取調所にて演習會あり唱歌管絃歌洋琴等代る〳〵あり昨年よりは一層の進步を示し特に時間短うして聽衆に十分の樂を得させたれば殊の外面白う覺へたり中にも研究生が保昌の唱歌、林幸田兩孃が鬂鑞の唱歌(右唱歌は鳥居忱君の新作にして本號の寄書欄內に掲載したるものなり)研究生等がトラビアータの管絃樂及びソープレット氏のバイオリン獨奏等大に喝釆を博したり來客四百余名弊社よりは編者參會したり

●本號には餘白なきを以て止むを得ず海外女事を除く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正増補 **文法口授** 全一冊●一名和文獨案内 定價十八錢 郵税四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて既に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尚亦今般大人に乞ひ改正増補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに **成立學舍女子部** 及び **頌榮女學校** 並に **明治女學校** 等の **教科書** となりたり

通信女學 第一卷 第二卷 **再版成る**

右發兌後非常に需要多く二卷共に賣切の所共再版出來致候に付尚ほ需に應ずるを得べし○尚ほ第三卷去月發行可致處女學雜誌發行停止に付一社出版物の法律に依りて發行被差止候に付當七月末には第三第四兩卷を發兌すべし

東京新橋日吉町八番地 **女學雜誌社**

森本介石編纂 島田三郎小崎弘道二君之序

日本全國基督教信徒同盟會 **演説集** 全一冊 定價廿錢

右は本年五月厚生館に開し日本全國基督教信徒同盟會にて催したる諸宣教師諸教師などの演説を筆記したるものなれは苟も宗教道徳社會の運動に眼を注くの士殊に今日東天の雲霧を排して赫々昇るの勢ある基督教の主義性質を知らんと欲するの士よ乞ふ一讀の勞を給へ

東京々橋區日吉町二十番地 **警醒社**

教育時論第八十號目錄 明治二十年七月五日發兌

定價一部金五錢郵税共六錢十部同五十八錢二十部同一圓十錢

○ペスタロッヂーノ肖像○**社説** 國民教育とは如何○**教育** 卑屈教員ヲ戒シム（在信夫環山樓主人）智誠ノ得心ヲ研クノ方法（石川縣杉中利平次演述）教育哲學（第七十六號ノ續）（朝夷六郎譯）（各地方ニ實業學校ヲ設置スル方案（承前））○**理科** 進化説大意（前號ノ續）（山縣悌三郎）家作ノ事（瓜生寅講述）○**文藝** まどのすみみ（たなかとうさく）五月雨（伊藤平章）教育小説（むゝい）○**内外雜纂**○**廣告數十件**

發兌所 東京下谷練塀町十四番地 **開發社**

細君の友 定價五十錢 紙數二百十三頁

英國ドイグ夫人著 日本井上勤君譯

凡ろ世の細君方は必らず子供を養育し婢僕を指圖するの職分あり此職分は何れも心配多き事なるが取分れ近來漸く西洋風の教育、衣食住の流行に從ひ子供の養育法も婢僕の召使方も次第に改良すへき事少からす此書は英國のドイグ夫人が右の職分を最と親切に説き明せしものなれば世の細君方には家事を治むるの善き友達なるへし

女學雜誌主筆巖本善治君譯

女之未來 全一冊紙數八十頁 改正定價二十錢

東京神田雉子町 **輿論社書店**

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

藤尾錄郎君著　田口卯吉君序

實地應用 家計簿記法

附 帳簿書式 全一册 正價四十錢 郵税十六錢

此書は簿記學に有名なる藤尾錄郎君の著述なり君大藏省銀行局にあり曾て生徒の爲めに銀行簿記例題を著はし今日簿記を學習するもの多く其惠に因るは世の知る所なり君我國家政の規律なきを慨し之を匡正するは簿記の實用に依らざる可らさるを思ひ即ち多年の講究を積みて此著述あり此書や唯朝夕數字をだに記入せば一家の出納細大漏さず之を明にするを得せしむる者にして官吏會社員農工商に論なく凡そ一家を經營する者は必ず購讀す可きの要書なり殊に齊家に志ある夫人令孃に取ては坐右不可缺の實鑑なれば女子を陶冶せんとする女學校の教科書には最も適せる者なり請ふ江湖の諸君一本を購求して此言の誣ひざるを知り賜へ

發兌 東京々橋區彌左衛門町 **經濟雜誌社**

賣捌 東京小林。丸善。博聞社。集成社。中央堂。叢書閣●大坂梅原。丸善●京都大黑屋。集光堂●横濱丸善●其他書肆

速記叢書 **講談演說集** 第五册まで發行

●每册定價郵税共特別割引金拾四錢

講談演說集は速記術に熟達したる諸氏が速記術を利用して講演者の言語を其儘に寫し取りたるものゝ中に就き世に稗益ありと認むるものを採拾し其校閲を講演者に請ひ併せて掲載の許諾を得たる者を掲るを以て其誤謬なきは明白なり、近來杜撰なる筆記を爲し講演者の校閲は勿論其許諾をも得ずして其筆記を雜誌等に掲載するものある由なるを以て萬一かゝる雜誌と同一視せられむことを恐れ念の爲め廣告す

原坦山君、細川潤次郎君、外山正一君、渡邊鼎君、加藤弘之君、高田早苗君、中村正直君、宇川盛三郎君、井深梶之助君、大谷木備一郎君、フルベッキ君、近藤眞琴君、寺尾壽君、薩埵正邦君

發兌

七月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日
八月。六日 十三日 二十日 廿七日
九月。三日 十日 十七日 廿四日
十月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

定價

一册。五錢 郵税。一錢（但府内無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢（同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行 一回（廿七字詰）前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部宛寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町二丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○東京本鄕四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

遞信省認可